

江戸城から版

NPO 法人 江戸城天守を再建する会

こんてんつ

- 大きなうねりを追い風に ……1
- 会長の講演行脚報告 ……2
- 全国の支部活動報告 ……3
- 三浦先生特別寄稿⑥ ……4
- 新規入会者・寄付者紹介 ……5
- 行事予定・お知らせ ……6
- 新春お城びより・特別展 ……7
- 新春お城びより・特別講演会 ……8

平成 30 年 12 月 3 日 第 50 号

大きなうねりを追い風にする運動を

理事長 島田昌幸



東京の街がいま大きく変貌しつつあります。来るべきオリンピック・パラリンピックに向けて競技施設やホテルの建設ラッシュが続き、鉄道や高速道路などの社会インフラの再整備も急ピッチ。天下の台所も2年遅れながら築地から豊洲に移転し、日本橋の上の高速道路撤去も本決まりになりました。私たちの運動はこういう都市のダイナミズムの中で展開しているのだと改めて実感しています。

今年春の総会で、理事会は今後の事業を三段跳びで進める「中期事業計画」を報告致しました。2021年のキックオフを目標に、明治150年に当たる今年は江戸と東京、日本の将来を見つめてホップする年、新しい天皇の世紀が始まる2019年でステップ、東京オリンピック・パラリンピックで世界の目が日本と東京に集まる2020年にジャンプするという構想です。

ホップの今年

ホップの今年、組織の強化に改めて取り組んでいます。支部組織を整備し、地域に密着した運動が進められるようにし、会員の拡大につなげたいと考えています。ホームページへのアクセスがスマホからできるようにし、もっと広い層と世代に呼びかけられるツールも整えました。さらに理事会では、「なぜ今江戸城天守の建設なのか」の考え方を改めて整理しようと議論を進めています。多くの人にもっと分かりやすく語りかけ、運動の訴求力を高めたいと思うからです。来年の総会で報告できるように致します。

もうひとつ、今年、整備・建設事業主体の準備にメドをつけたいと考えてきました。天守閣建設の具体的中身と費用、事業採算性についての勉強会を立ち上げ、公共、公益性の

強い企業によるコンソーシアムの設立につなげたいという狙いからでした。ただ、こちらの方は現在のところペースをスローダウンさせています。

中期事業計画には、新しい天皇による、この国の未来へのメッセージを込めた「築城」事業にしたいという思いを込めましたが、そうであれば一連の儀式が滞りなく終わるのを待ってからの方が良いかもしれないとの意見が出始めているからです。来年のしかるべき時期にアクションできるよう、下準備を進めます。

来年はステップの年

来年はステップの年。4月30日と5月1日に天皇陛下の退任、即位が行われます。平成が終わって新元号が公布され、新しい天皇の世紀が始まります。11月には皇居東御苑で皇室の神事として大嘗祭が行われます。国を挙げての祝賀の1年になるでしょう。

私たちはこの大きなうねりを運動の追い風にしたいと思っています。ゴールデンウィーク中には東御苑に天守閣の模型が設置されると聞いています。ただ皇居に天守閣を建てさせて頂きたいという運動の性格上、最も神経を使い、いたずらに反発を呼ばぬよう慎重に行動しなければならない時期でもあろうかと思えます。

その事を肝に銘じつつ、やはり当面はNPO法人本来の運動の深化に注力していくことが必要です。支部組織を増強して会員拡大基盤を強化する。様々な機会をとらえ地域社会に入り込んで署名を積み上げる。新しいツールを使って幅広い層に訴えていく。地道なそれら努力を続けて、理解と支援のネットワークを広げていくことが、今改めて大事なのだと思っています。

100万人賛同署名運動推進中！

51,063筆 (11月18日現在)



2018年「江戸城天守再建」の講演報告

日本橋の上の高速道路の地下化と 名古屋城天守の木造化に追い風を感じた

会長 太田資暁

私は月に1、2度あちこちで講演をしています。主に演目は「江戸城天守再建」と「江戸の成り立ちと太田道灌」です。

最近各地ではいろいろなサークル活動が盛んで、その時々話題性のある講演が求められ、私など安上がりですから結構声がかかります。各地のコミュニティセンターとか学校や会社のOB会とかロータリークラブとか、種々いろいろなところでやっております。共通しているのは聴衆の方々に高齢者が多いということです。

講演以外で現在私が力を入れているのは『太田道灌をNHK大河ドラマへ』の運動です。2021年には何とか放映してもらいたいと思い、先日も関東各地の代表とともに17万件の署名を持ってNHKへ陳情に行ってきた。

制作局長さんは、今までの大河は関東の武将が少なかったと言っておられ、反応は決して悪くはなかったです。しかし何しろ各県から膨大な要請が来ておりますので予断は許せません。そして放映が実現したら江戸が盛り上がりますので、その勢いで天守再建に全力投入しようと思っております。

今までの天守再建の講演では9割以上の人が賛成であると感じますが、皆さん自ら行動するよりは高みの見物が主流のようです。しかし今後何か契機があれば大きく活動が盛り上がるでしょう。そして追い風が吹いていると感じるのは、日本橋の上を走る高速道路の地下化が決定されたことと、名古屋城天守の木造化を2027年までに完成させるということです。この話をしますと皆さん大きく頷いておられます。

それから練馬支部で講演した二次会で、元フジTVアナウンサーの小林大輔さんが、オリンピック後の日本には目玉が無いので、江戸城天守再建は国民に夢を与えることになるかと強く主張されておりました。

今まで講演の思い出は数々ありますが、一番気持ちよく喋れたのは経済同友会で話した時のことです。話し手からみて聞いている人の反応が極めて良く、天守再建に賛同してくださっている空気がヒシヒシと伝わってきました。

一方意を尽くせなかった講演は外国特派員協会で行った時のものです。話の途中でパソコンの不具合により画像が消えてしまい、口頭だけで表現しなければならなかったこと。そして何よりも通訳の人に迷惑をかけたことです。櫓(やぐら)とか破風(はふ)とか武者走りとか現代では使われない言葉を通訳することは大変なことです。通訳の人とは事前にしっかり打ち合わせをしておくべきであったと反省しております。

現在、東御苑入場者の半数以上は外国人です。彼らは天守台の上にタワーが無いことを不思議に思っております。従って今後外国の人から声をあげてもらふことも大切なことと思っておりますので、外国特派員協会での講演は再チャレンジしたいものです。

太田会長と堀口茉純さん(お江戸歴史作家)のダブル講師による新春講演「江戸と江戸城の移りかわり～道灌の築城から始まった400年」を、2019年1月6日に東京国際フォーラムにて開催します。

※詳細は終面をご覧ください。

全国の支部長紹介(3)／支部の活動報告



静岡沼津支部長
水口 淳氏



大宮支部長
中村賢二郎氏



千葉第三支部長
西角 明継氏



東京城西支部長
泉 毅氏



川崎麻生支部長
佐藤 隆氏

武蔵野支部会を開催

武蔵野支部から提案 武蔵野支部長 和泉潤一

10月27日に開催された第3回支部長連絡会を踏まえて11月2日に武蔵野支部会を持った。太田会長も出席して、9名の会員が自由に意見交換したので、その要旨を報告する。

(1) これまで吉祥寺駅前や三鷹駅前でチラシ配布、署名活動を行ったが効果が小さい。そこでポスティング用のチラシを作成して、近所にポスティングしてはどうか。

(2) 江戸城天主再建は遅くとも2025年までにしなくてはならない。そうでないと当会の存在が単なる趣味の会になってしまう。ではどうやって実現するのだが、鉄からブルドーザーにパワーアップする。現状のやり方、個人活動だけで会員や署名を集めることは限界がある。そこで政治力もある東京商工会議所やロータリークラブといった有力団体を取り込んで、支部長を出してもらい、会員、署名、寄付を集めてもらい認知度を上げる。

(3) 東京を中心に据えて組織強化し活動を展開する。

(4) 江戸城天守のブランド化をすすめる。まず「江戸城天守再建」のロゴマークを公募し、若者たちの関心呼び込む。TV局に売り込んでこのイベントをTV放送してもらい認知度をアップする。当選したロゴをTシャツやトートバッグにして会員やイベント、通販で販売し、資金力と認知度を広める。

会員の声

炎天や未来にあらむ天守閣

俳人協会会員 川面忠男

東北を旅した知人から「戊辰戦争150年」の幟を各地で見たと聞いた。藩祖・保科正之の遺訓を守って徳川幕府に殉じた会津の恨みは晴れない。正之は4代将軍の家綱を補佐し、明暦の大火で焼失した江戸城天守閣の再建話が持ち上がった時は幕府の財政を圧迫する要因になるとして再建に反対した。

私は2016年10月、多摩稲門会の文化フォーラムで講師となった太田資暁さんから会津松平家の当主から江戸城天守閣を再建することに同意していただいたと聞いた。さらに太田さんから「皇居東御苑に残る天守台は外国人観光客に人気がある」と聞き、聴講者の多くが天守閣再建に賛同の署名をした。

その一カ月前、中国の荊州市で完成したばかりの関羽の像を見た。高さ68m、世界一高いという。天守閣が東京の空に聳えれば、東京の魅力はさらに高まるだろう。

〈炎天や未来にあらむ天守閣〉という句を作った。





広島大学名誉教授
三浦 正幸氏
(当会特別顧問)

特別寄稿 『歴史に残る名城の天守』

<第6回：岡山城天守>

旧国宝岡山城天守は昭和20年6月29日の空襲によって焼失した。昭和20年の戦災では、当時の国宝天守のうち名古屋城大小天守が5月24日、和歌山城大小天守が7月9日、大垣城天守(岐阜県)が7月29日、広島城天守が8月6日、福山城天守(広島県)が8月8日と次々に失われた。とくに岡山・名古屋・広島の3棟の五重天守は、現存12棟の天守よりも歴史的価値が圧倒的に高く、その喪失は大いに惜しまれる。今回は、その岡山城天守について紹介したい。

岡山城は、豊臣五大老の一人で、秀吉に厚遇された宇喜多秀家(うきた・ひでいえ、「秀」は秀吉から与えられた)が築き、慶長2年(1597年)に完成したとされる。天守の完成はそれより少し早く、文禄元年(1592年)頃と推定される。戦災焼失していなければ、広島城天守とともに現存最古の天守だった。

岡山城天守は、五重六階の望楼型天守であった。二重二階の大きな入母屋造の建物を基部とし、その屋根上に一重一階の入母屋造を載せ、さらにその上に二重二階の入母屋造を載せた、珍しい三段積みの望楼型である。三段積みは熊本城の大天守と宇土櫓の例があ

るが、一般的な望楼型五重天守では、二重二階の上に三重三階を載せる二段積みなので、特殊な構造である。

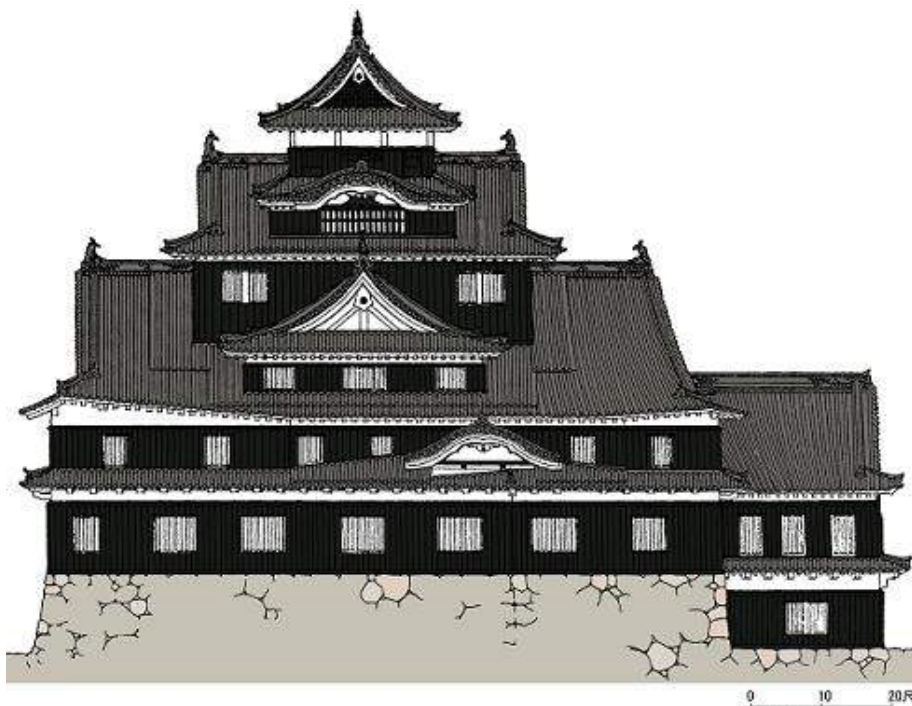
なお、他の望楼型の五重や四重の天守に見られるように、三階が大きな入母屋屋根の中に埋没する屋根裏階となっているので、外観の屋根の重数よりも内部の階数のほうが一つ多い。天守の外壁は黒く塗られた下見板張りで、カラスのようだとして鳥城(うじょう)と呼ばれる。

岡山城天守で注目されるのは、一階の平面の形状である。扁平な不等辺五角形なので、東南隅だけがなんとか直角となり、他はすべて鈍角である(正五角形ならすべて108度となる)。五角形になった原因は、本丸の形状にある。岡山という低い山の頂部を削平して本丸を設け、その外周は山を折れ線状に削って石垣を築いている。そのため、石垣は、鈍角で折れ曲がる。鈍角の頂部を鎬隅(しのぎすみ)といい、天守がその鎬隅に建てられたので、必然的に不等辺五角形になってしまった。安土城天主の不等辺八角形を真似たとする向きもあるが、真相は鎬隅に建てたことにある。

不等辺五角形では二重目に入母屋屋根

が掛けられないので、二階では鎬隅の頂部を削り取って長方形平面に近づけている。すると、削ったところの一重目屋根が一階の鎬隅に向かって迫り上がってきて、恰好が悪くなる。そこで一階の鎬隅の上に唐破風の出窓を設けて迫り上がり部分を隠している。唐破風をぼろ隠しに使った、史上唯一の建築であって、その巧妙さには敬意を表したい。

また屋根裏階となる三階の明り採りの



岡山城天守北立面図 1/300 単位:尺
©着色:平成17年 山田岳晴

原図:仁科章夫氏複製実測図(「岡山城に就て」『建築雑誌』第502号・昭和2年)

→ ために、大きな入母屋造の出窓を突き出している。これは安土城天主や豊臣大坂城天守にもあったはずで、天下人の天守の形式を正統に継承している。最上重の入母屋屋根は、基部の入母屋屋根と直交しており、天守の正面である南側（本丸正面側）と北側（城外から見た正面）に三角形の破風を向けている。これは天下人の天守がもつ品格であって、信長の安土に始まり、秀吉の大坂、家康の名古屋、秀忠と家光の江戸の天守に継承された。臣下の天守では、広島・熊本が代表である。

岡山城天守の入り口は、現在のコンクリート造の再建天守では南側から穴蔵（地下階）に入るが、戦災前の天守には穴蔵はなく、天守の西側に接続する塩蔵（しおぐら）と呼ばれる付櫓（つけやぐら）から入る。塩蔵に入ってその二階に上がり、そこから天守一階に通じていた。豊臣大坂城天守では、天守の付櫓の入り口の鍵を秀吉がもっており、付櫓から登閣している。

すなわち岡山城天守は、いろいろな点で安土・大坂の天守の形式を継承した正統だったのである。

2019年通常総会のお知らせ：3月2日

2019年通常総会の開催日が決まりました。3月2日土曜日午後には都心の会場にて開催します。ご予約をお願いします。

第3回支部長連絡会を開催

10月27日(土)、18の支部長を集めて第3回支部長連絡会を開催。おかげさまで賛同署名が5万筆を越えたことや、年明けすぐに開催される「新春お城びより」特別展(東京国際フォーラム)の手配に対して鈴木・京都支部長の全面協力があつたこと等が報告されました。

支部長の皆さんから、会員を増やすこと、若い層をまきこむワクワクする運動を企画すること等について、さまざまなアイデアをいただきました。



江澤・千葉第一支部長が、自ら作詞した「江戸城ソング」をYouTubeで披露

江澤廣・千葉第一支部長が、江戸城天守再建運動を行う上でテーマソングがあればいいなと思ったので、自分で作ってしまったそうです(作曲は、おがわ昭三氏)。



スマホもしくはPCで、YouTube「江戸城ソング」を検索すれば、お聴きになれます。

会員みなさまへ【お知らせとお願い】

- ①「年会費納入のお願い」タイミング
それぞれの会員の入会月に次年度の「年会費納入のお願い」をお送りします。「かわら版」を同封することがあります。
- ②会費や寄付金の決済はクレジットカードでどうぞ。ご希望に応じての次年度年会費の自動引き落としも始めました。カード決済が可能になりました。当会ホームページの、<http://npo-edojo.org/> からどうぞ。
- ③住所等変更届けのお願い
住所・電話番号などが変更になりましたら、FAXや電話で早めに事務局までお知らせ下さい。
- ④Eメールアドレスの登録のお願い
Eメールアドレスをお持ちの方は事務局宛にメールをお送り下さい。イベント等の情報をお送りします。

東京国際フォーラム新春開催の「新春お城びより 特別展」にて『戦国魂』のグッズや福袋を販売します。

2019年1月2日(水)～1月6日(日)

於：東京国際フォーラム ガラス棟1階・道灌銅像広場

新春に東京国際フォーラムで開催される「新春お城びより」の特別展および特別講演会(当会運営)では、当号7・8面で紹介している様々なワークショップや講演/コンサー等を実施します。

目玉企画として『戦国魂』の協力の元、初めて江戸の地に城を築いた武将“太田道灌”の銅像横で、戦国時代や江戸時代を楽しめるコーナーを展開します。

戦国グッズ専門店『戦国魂』の新作グッズや福袋の販売、豪華賞品の当たる抽選会も実施。この期間なら東京国際フォーラムにて戦国グッズをお求めになれます。

↓東京国際フォーラム・ガラス棟1階(東京駅側)の道灌銅像

↓『戦国魂』の東京スカイツリータウンのお店



■今後の行事予定(ボランティア協力をお願いします)

12/22(土)～24(月) お城 EXPO(パシフィコ横浜)
※当会ブースを出展します。

1/2(水)～6(日) 新春お城びより(東京国際フォーラム) J-CULTURE FESTの一環としてお城/戦国関連イベントを開催

<新春お城びより 特別展>

- 1/2(水)・3(木) 正月テーマパーク運動：舞踏『武楽』、花押体験、歴史トーク
- 1/3(木) 墨絵師『御歌頭』による墨絵ライブ
- 1/2(水)～6(日) 常時開催：記念撮影パネル、戦国グッズ・書籍販売、抽選会

<新春お城びより 特別講演会>

- 1/3(木) 黒田ガイドによる散策ツアー
 - 1/4(金) 黒田涼 講演
 - 1/5(土) 日本書記レクチャーコンサート
 - 1/6(日) 太田資暁・堀口菜純 講演
- ※4日の黒田講演の実践編が3日の散策です。

3/2(土) 2019年通常総会

◆寄付の耳より情報：「日本の絆基金」寄付

「日本の絆基金」を利用して当NPO法人へ1万円以上ご寄付いただいた場合には、税制上の優遇措置が受けられます。翌年の確定申告で約4割が戻ります。詳細は当会ホームページの「寄付」の欄をご覧ください。

新春特別展 お城びより

ガラス棟1階東京駅側・太田道灌銅像横



江戸城天守再現図

正月テーマパーク連動企画

(1月2日、3日10:00~18:00)※一部有料

舞踊「武楽」



古武術を中心に、武士のたしなみである能や茶道の諸要素と音楽や華道などを加えた芸術表現「武楽」を体験しよう！

両日実施 14:00

歴史トーク&サイン会



歴史トークショーでは作家の長谷川ヨシテルさんが登場。戦国魂鈴木Pと共に、歴史の魅力を伝えます。サイン会も◎

両日実施 15:00

花押ワークショップ



日本花押協会
武将が書状の最後にサインとして書き記した花押。今回のワークショップでは戦国武将の花押を体験できます。

両日実施
11:00/13:00/16:00

獅子舞



気天流獅子舞
江澤廣さんが獅子舞を演じます。こちらは正月テーマパークにてご覧ください。

2日実施

常時開催企画

(1月2日~6日10:00~18:00 入場無料)

記念撮影コーナー

①太田道灌顔出しパネル

…『当方滅亡』名ゼリフと共に記念写真を撮影



②再建江戸城天守パネル

…寛永度江戸城天守を再現した大パネル前で記念撮影をどうぞ！

展示・鑑賞コーナー

①太田道灌像&江戸城再現模型

…江戸城を築城した名将道灌の像、江戸城模型は必見！



②スマホで見る寛永度江戸城と現在の皇居東御苑

…皇居東御苑の江戸城旧本丸に存在した建築物の再現画像をあなたのスマートフォンでご覧になれます。

グッズ・書籍販売 / プレゼントコーナー

戦国グッズ専門店「戦国魂」のオリジナルグッズをこの期間に限り販売します。豪華賞品が当たる抽選会も実施。



東京国際フォーラム
ホールE 入場無料

正月テーマパーク

2019 1/2(水).3(木) 11:00~18:00

入場無料で、ふるまい餅や、角打ち、ちびっこ相撲などさまざまな日本文化を体験・発見、そして味わえる魅力的な「にっぽん」が詰まった「正月テーマパーク」を開催します。お正月は東京国際フォーラムへ。



東京国際フォーラム
ロビーギャラリー 入場無料

即位の美・儀式の美 / 平安王朝文化絵巻

2019 1/2(水)~1/15(火) 10:00~20:00

平成最後のお正月。来る「即位」の儀式にまつわる展示をはじめ、日本文化の原点「源氏物語」の優雅なる平安文化の彩りをご堪能ください。



新春お城びより 特別講演会

J-CULTURE FEST 連動企画 東京国際フォーラム ガラス棟5階 G510 会議室



黒田涼



ヒストリア・天皇秘歌
♪日本書紀歌謡 レクチャーコンサート♪



太田資暁



堀口茉純

1月3日 14:00~16:00 ガラス棟1階出入口(東京駅側)広場集合・解散

3日 (木)	散策ツアー「江戸東京の幕末・維新・開化を歩く」	ガイド：黒田 涼 (作家・江戸歩き案内人)	知られざる幕末・維新の現場を、黒田さんが実際に案内する散策ツアーを実施します。
-----------	-------------------------	--------------------------	---

1月4日、5日、6日 14:00~16:00 ガラス棟5階 G510 会議室

4日 (金)	講演 「江戸東京の幕末・維新・開化を歩く」	黒田 涼 (作家・江戸歩き案内人)	幕末・維新には多くの事件は江戸で起きました。さらに維新後は、西洋文明が流れ込み、新しい組織、学校、企業など東京で生まれました。その現場は今もあちこちで見ることができます。知られざる幕末・維新の現場と明治維新の意義についてお話しします。
5日 (土)	講演&コンサート 「ヒストリア・天皇秘歌」 ♪日本書紀歌謡 レクチャーコンサート♪	レクチャー 佐藤溯芳 龍笛奏者 久保 順 箏奏者 内藤美和	2020年、日本最古の歴史書「日本書紀」は編纂1300年を迎えます。『日本書紀歌謡』研究者である和歌山大学観光学客員特別フェロー佐藤溯芳氏による日本書紀に秘められた古代歌謡についてのレクチャーとともに、一流演奏家によるライブをお聴きになれます。
6日 (日)	講演 「江戸と江戸城の移りかわり～道灌の築城から始まった400年」	太田資暁 (太田道灌第18代子孫) 堀口茉純 (お江戸歴史作家)	太田道灌が1457年に初めて江戸の地に築いた城が、1590年徳川家康の領地関八州の拠点となり、その後も成長を続けて100万人都市に発展しました。道灌が活躍した関東戦国史の流れの中で、江戸がどのように変化して徳川に引き継がれたのか。徳川時代の土木工事がどのように行われたのか。江戸と江戸城の発展を街づくりの視点からも見ていきます。

- 参加費(各回共通料金、1講座あたり)
会員:1000円
一般:12月21日振込まで1000円、22日以降 1500円

- お申し込みはEメール、FAX、お電話で
下記NPO江戸城天守を再建する会までメール、FAX、電話でお申込みのうえ、参加費を振込みください。なお12月21日以降振込みの方はお手数ですが振込控を当日持参ください。

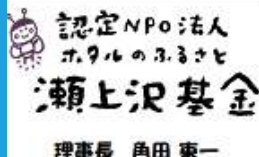
- 振込先
三井住友銀行光が丘支店(普)0851894
特定非営利活動法人 江戸城天守を再建する会 口座もしくは
ゆうちょ銀行 00120-9-578881 NPO江戸城再建
- 取消料
12月21日まで500円、22日以降は全額を申し受けます。



NPO法人 江戸城天守を再建する会

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-5-7
神田中央ビル 505

◇電話 03-6423-1882 ◇FAX: 03-6423-1897
◇Eメール info@npo-edojo.org
◇ホームページ http://npo-edojo.org
◇Facebook http://www.facebook.com/npoedojo



皆様の婚活を
お手伝いします

